

令和3年度第1回ステップアップ自己研修会報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第76回 大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会（2次予選）		
●日程	令和3年5月30日（日）		
●会場	おおきにアリーナ舞洲		
●講師	湯浅剛氏、黒岡和哲氏、茅野修司氏		
●スケジュール	令和3年5月30日（日） （開講式なし） 10:00 実技開始		
●担当試合	令和3年5月30日（日） 10:00 ~		
対戦カード	大阪薫英女学院高等学校	V S	大阪体育大学浪商高等学校
主審	CC:花谷慎子	U1:森照代	U2:伊達桃子
講師/主任	黒岡和哲氏、湯浅剛氏		
講評	<ul style="list-style-type: none"> ・クルー全員がコートの外にいることがよくない。 ・1ゲーム通してトラベリングに対する判定基準。 ・アウトオブバウンズの判定。最後のラストタッチまでしっかり確認すること。 ・笛を鳴らすタイミングは良い、もっと力強く見せること。 ・AOSの始まりの確認と終わりまで油断せずに接触を確認すること。 ・リードのローテーションでウィングのボールマンの体の向きを見ながら、ボールがどちらに展開されるのかも予測しながら、ローテーションするべきかバックペダルで戻るべきかを判断する。 ・ベンチからの声は、異論表現なのかコミュニケーションなのかの判断。 		
自己の感想	<p>試合の入り、3POの動きに気を取られて試合の初めに判定基準を示すことができなかった。チェックインとチェックアウトを意識。リードの時には、セットアップポジションとクローズダウンの一度りをもっと明確に細かく動くようにしたい。プレーヤーを背中から見てしまうことも多く、より良いポジショニングを位置取る必要があった。AOSに対しての判定は一貫して捉えることができたが、セカンダリーとしてもっと鳴らしても良いケースがあったと思う。コールできなかった原因はコートの外にいることが多くプレーヤーとの距離が遠かったので、吹き込む勇気がなかったと思う。あとは、自分の1番の課題でもある強さ、見せ方をもっと工夫する必要があると思った。上級になる意識をもっと持って、一つ一つの行動や考え方を変えて取り組んでいきたいと思えます。</p>		

第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第76回 大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会 2次予選						
●日程	令和3年5月30日		(日) ~		令和3年5月30日		(日)
●会場	おおきにアリーナ舞洲						
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部の皆様						
●スケジュール	令和3年5月30日 (日)						
	開講式なし 各自割当時間に合わせ集合 閉講式なし 適宜、解散						
●担当試合	令和3年5月30日 (日) 13:20 ~						
	対戦カード	關西大学北陽高等学校			VS	近畿大学附属高等学校	
	主審	CC	大倉氏	U1	細見氏	U2	木村
	講師/主任	黒岡 和哲 様					
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・クロックの把握ができており、訂正の対応もスムーズであった。プレゼンに工夫があると、より分かりやすかった。 ・片方のチームのみにファウルが蓄んでいくのは違和感があった。特にゲームの入りの時間帯、same-sameで判定できていたか。 ・ゲームフローの中で逃してはいけない現象に対する意識を強く持つ。 ・ファウルとほぼ同時にショットクロックのブザーがなった場面では、前後関係に確信があった場合でも、クルーで集まって確認する絵を作ることでベンチはより納得したのではないか。 ・トレイルの位置取りが高い。特に3Pシュートに対する手のヒットを見逃す場面が複数回あった。レフリーディフェンスできる位置を常に意識すること。 					
	自己の感想	<p>自身の課題であったゲームの入り方は非常に良かった。タフなゲームであったが1ゲーム通して大きく崩れることなく落ち着いて判定し続けることができた。今日の試合の感覚を忘れないようにしたい。</p> <p>プライマリエリアの現象を判定できなかった場面を後から映像で振り返ると、動きながらの判定になっているものがほとんどであった。止まった状態で判定できるように、プレーの理解・予測、メカの洗練にこれからも継続して取り組んでいきたい。</p> <p>コロナ禍でこのような研修の機会を設けていただき、講師の方々、関係者の皆様には感謝申し上げます。</p>					

2021年度第1回ステップアップ講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和3年度第76回大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会						
●日程	令和3年4月18日 (日) ~			令和3年6月6日 (日)			
●会場	おおきにアリーナ舞洲他						
●講師	茅野 修司 様、黒岡 和哲 様、湯浅 剛 様						
●スケジュール	令和3年5月30日 (日)			おおきにアリーナ舞洲 メインアリーナ			
	開講式なし 各自割り当て時間に合わせて集合 13:30 PGC 14:00 更衣・W-up 14:45 コートin 14:50 コートインスペクション 15:00 実技開始 閉講式なし 適宜解散						
●担当試合	令和3年5月30日 (日) 15:00 ~						
	対戦カード	大商学園高等学校			VS	桜宮高等学校	
	主審	主審	北村 仁 氏	U1	池嶋 一幸 氏	U2	河崎
	講師/主任	茅野 修司 様					
講評	<ul style="list-style-type: none"> ・一試合を通してのファウルコールの中で、いくつかマーシナルコンタクトをコールしている。ファウルの線が出たから吹いている印象だが、果たしてそれは本当にRSBQのいづれかが割れたファウルなのか、その場面で必要なコールだったのかを映像で確認して欲しい。 ・メカの崩れが一歩あった。原因は何なのか追求して欲しい。 ・3 or 2の確認の際に動きながらの判定が多い。Fulを確認するアングルが取れていないので、それが判定が不安定になる原因である。 ・OTで取り上げたドライブファウルのAOSの確認が不十分で、その後の振る舞いに不安定さが残った。まずはプレーに最後までコネットをしますAOSの確認をする。そして、例えばプレーヤーからどのような反応をされたとしても、最後まで自信を持って判定すべきである。 						
自己の感想	一試合を通して、「形だけで捉えずに、プレーを最初から最後まで見届けてファウルを判定する」重要性を知るこのできた試合でした。特に、プライマリエリアで起こったコンタクトに対しては、プレーのはじまりから終わりまでを見届けて、取り上げるべきコールなのか、マーシナルコールなのかを判断する必要があると感じました。AOSについても同じで、最後までプレーにコネットして「ボールをキャッチしていたのか？ 誰がファウルをしたのか」という情報を漏さないことの大切さを実感しました。メカニクス、プレーコーリングについてはまだまだ課題が山積していますので、これからまた研鑽していきたいと思います。 最後に、このような御時世の中で、インターハイをかけた非常に重要な試合に割り当てをしていただきありがとうございました。今回の研修会を開催していただいた大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、また大会を運営されております大阪高体連の皆様様に深く感謝申し上げます。						

令和3年度 B級連盟審判員ステップアップ講習会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	大阪高体連インターハイ 2次予選大会						
●日程	令和3年5月30日 (日)						
●会場	おおきにアリーナ舞洲						
●講師	黒岡和哲様 茅野修司様 湯浅剛様						
●スケジュール	令和3年5月30日 (日) 開講式・閉講式は実施なし 受講生は適宜会場入り						
●担当試合	令和3年5月30日 10:00 ~						
対戦カード	大阪薫英女学院高校			VS	大阪体大浪商高校		
主審	CC	花谷氏	U1	森氏	U2	伊達	
講師/主任	黒岡和哲様						
講評	今回の試合では明らかなトラベリングであったり、ファウルの判定ができていなかったことを指摘して頂きました。特にテンポセティングが必要なゲームの初盤での判定の必要性をご指導頂きました。メカニクスに関しては、判定にするにあたっての位置取りや体の向きを指摘していただきました。現象が生じてから位置を変えている場面があったので、予測した中での位置取りを考える必要があるとご指導頂きました。プライマリという観点では、自分が今その現象に関してプライマリなのかそうでないので判定をするタイミングや吹き方の工夫を考える必要があるとご指導頂きました。ゲームコントロールではベンチの管理という点でHCのコミュニケーションなのか異論表現なのかにより対応を変えること、場合によってはTFを判定することを強さとして持つておくことの大切さを教えていただきました。また、ゲームをスムーズに進行するためにスピードアジャスターを意識することをお伝えして頂きました。						
自己の感想	全体のゲームとしては、明らかなものの判定ができていなかったことが反省点として挙げられます。ミートの部分でのトラベリングの判定に勇気をもって判定すること、そもそもトラベリングが生じるかもしれないと予測する必要性を感じました。自己の反省としてはベンチコントロールをするためのレフェリーとしての強さを持ちつつ、ベンチときちんとコミュニケーションをとることが必要であると感じました。メカニクスではプレイに合わせた細かい動きや予測した中での位置取りを工夫する必要がありました。また、ゲームの進行に当たっては全体的に間延びしてしまった進行であったので、レフェリーが先導する意識でのゲーム進行が必要であったと考えております。今後はご指導していただいた内容を糧に自己研鑽を続けていきたいと考えております。						

2021年度第1回ステップアップ自己研修会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和3年度 第76回 大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会 2次予選		
●日程	令和3年5月30日 (日)		
●会場	おおきにアリーナ舞洲		
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部		
●スケジュール	令和3年5月30日 (日)		
	各自割当時間に合わせて集合する。 開講式及び閉講式は行わない。		
●担当試合	令和3年5月30日 (日) 11:40 ~		
	対戦カード	桜宮	VS 星翔
	主審	CC: 太田氏 UI: 田中氏 U2: 重松	
	講師/主任	茅野氏	
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・コールしているものは良いが、レポート後の視線や振る舞いをもう少し工夫すると良い。 ・クルーが訂正処置したものを共有し、次に同じことがあった時に対応できるようにすることで円滑なゲーム運びにできる。 ・ゲームの決め手となるようなことが起こった時に、対応できる準備をしておくこと良い。そのために、予測や状況判断を素早くできるための準備が大事。 	
自己の感想	<p>メカに関して大きな崩れはなかったが、リードのローテーションが重くなる時があったように感じました。なので、クローズダウンポジションをうまく活用しながら、かつボールの展開に応じてスムーズにローテーションをできるように準備をしておかないといけないと改めて考えるきっかけとなりました。それから、今回のゲームでは体格差がある中でOF、DFのシリンダーをどちらか優らせてしまっているのか、リバウンドやポスト、ボールのもらい際などのコンタクトや手に対してもう少し早い段階で整理する必要があったように思いました。他には、トラベリングに関して、ゲームに入る前に確認はしていたのですが、意識して見て判定していましたが吹ききることはできなかったかと思います。また、クロック管理に関して、細かなところへの配慮が甘かったため取りこぼしてしまったケースがあり反省・課題となりました。</p> <p>今回の自己研修会で新たな気づきや学びとなり次に向けて準備を深めていく必要があると考えさせていただきました。</p> <p>さまざまな大会が中止になる中、徹底された感染症対策により無事に自己研修会を終えることができました。ありがとうございました。また、第1回ステップアップ自己研修会を開催してくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。</p>		

2021年度 第1回 ステップアップ 自己研修会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和3年度 第76回大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会 2次予選					
●日程	2021年 5月30日(日)					
●会場	おおきにアリーナ舞洲					
●講師	茅野 修司 様		黒岡 和哲 様		湯浅 剛 様	
●スケジュール	2021年 5月30日(日)					
	13:30 クール集合・PGC(開講式なし)					
	14:45 コートインスペクション					
	15:00 実技開始					
	17:00 ポストゲームカンファレンス・解散(開講式なし)					
●担当試合	2021年 5月30日(日) 15:00~					
	対戦カード	大商学園高等学校			VS	大阪市立桜宮高等学校
	クルー	CC	北村 仁 氏	U1	池嶋 一幸	U2 河崎 亮介 氏
	講師/主任	茅野 修司 様		黒岡 和哲 様		湯浅 剛 様
	講評	<p>・コンタクト＝ファウルになっている場合が多く、もっとプレイを長い目で見る。結果的にマージナルになっており、鳴らさなくてもいい場面が多々あった。</p> <p>・ブレイジのケースが重大な場面であった。一人で答えを出さずにクルーで寄って答えを出すべきだった。このコールによってチームの勝敗や、選手たちの将来に影響があることも含め判定、判断をしていくことが必要。</p> <p>・今、自分たちが置かれている状況をもっと強く意識すべき。上級審判員候補として1試合通してゲームを作り上げていく。39分間良いレフェリングをしても、最後の1分で崩れることも大いにある。ゲームフローを感じながら、テンポセットをきちんと行っていく。</p>				
	自己の感想	<p>・ゲーム開始時からコンタクトに対して過敏に反応しすぎてしまった。コンタクトはあるが、その後パスが通っていたり、得点につながる場面もあったので、もう少しその後のプレイまで予測して笛を入れるべきだった。</p> <p>・ゲーム中での一番の重要局面でブレイジのケースがあった。自分自身がオフェンスファウルのジェスチャーをしてしまっており最終的にはそのままの判定でゲームを進めてしまったが、クルー間で寄り合い協議するべきだった。この判定で試合の結果が変わってしまうこともあったため大きな反省点である。一つのジェスチャーや判定で今まで積み重ねてきたものが台無しになるということを痛感した。</p> <p>・今回のゲームを通じてテンポセットの甘さを改めて感じた。もちろんブレイジなどの大きな場面での課題はあったが、オヴィアスなものやトラベリングなどの判定基準の精度を高めないといけないと感じた。</p> <p>・コロナ渦の中、このような機会を与えてくださった大阪府バスケットボール協会審判委員会のみならず、大阪高体連のみならず感謝申し上げます。改善しなければいけない課題もたくさん再確認でき、また自己研鑽を重ねて、今後の審判活動に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。</p>				